

あぐりサポートニュース

福島県農業振興公社だより

第 3 号 平成 13 年 3 月

発行元 福島市中町 8 番 2 号

財団法人福島県農業振興公社

TEL 024-521-9833 FAX 024-524-2393

農業公社牧場設置事業川俣・飯野地区完了 !!



(草 地)



(パーラー舎)



(搾乳施設)

概 要

基本施設

草地造成改良工事 2.0ha

草地整備改良工事 18.32ha

利用施設

パーラー舎 1 棟

パーラー施設 1 式

パルククーラー 1 式

自動給餌施設 1 式

利用施設

飼料混合給餌施設 1 式

平成 11 年度から事業を実施しておりました「農業公社牧場設置事業川俣・飯野地区」については、関係機関のご協力により平成 12 年 12 月 22 日に完了することができました。

今後、地域での畜産振興の発展にご期待いたします。

総合推進事業実施地区「原町市 高地区」 放送される。



平成13年1月28日福島中央テレビが放送した福島県の広報番組「こんにちはふくしま」において、総合推進事業を実施した原町市高地区を紹介しました。

放送の主旨は先祖伝来の土地を守ることから始まり、新しい農村のしくみをつくりながら、農地を「農地の状態のまま」で守る農村の取り組みを紹介し、更に、農地の働きと現状、農地を守るシステム（高営農改善組合）及び農地保有合理化事業について当公社農地調整課片平課長が出演して説明しました。

オープニングでは田園風景、田植えの様子、ほ場整備地区および集落の話し合い風景が流れ、次に農地の果たす役割について農産物を生み出す。国土を守る。水循環の要の役割。田畑が広がる風景には人の心を癒すものがあることを話し、画面では、田植えやグリーンツーリズムによる農作業の風景が流されました。

次に当公社の農地保有合理化事業について、フリップを使用しハード事業（基盤整備事業）で小さな水田を整備した農地を効率的に利用するため、ソフト事業で農地の貸借や農作業の受委託等をまとめることを説明しました。

また、農地利用集積の具体的手法として、第一段階は、農地を交換などにより所有権を移転して集積する。第二段階は、農地の賃借により集積する。第三段階は、大型機械による作業を受託して集積し、作業効率を上げ、生産コストの大部分を占める機械コストが低減できることを説明しました。

農地利用集積の事例として原町市高地区の村づくりについて紹介され、同地区の概要（場所、地区面積、農家戸数等）の説明に続き、

アナウンサーによる現地レポートがあり、ほ場整備事業により整備された1haのほ場が紹介され、石橋善継高営農改善組合長がブロックローテーションの内容及び大型ほ場になったことから大型機械による効率的な農作業をしていることを説明しました。

さらに、高機械共同利用組合長佐々木教喜さん（平成5年・12年合理化事業活用）にインタビュー、組合設立経過及び大型機械やコンバイン等農機具が紹介され、現在、地区の1/3を占める麦転作については播種から収穫まで全作業を行い、水田についても50戸の農家から基幹3作業について受託していることを説明しました。

また、農作業を機械利用組合へ委託したことにより、あいた時間を利用してトマト栽培を始めた杉内久三さん（平成2・5年合理化事業活用）が紹介され、ハウス内での作業風景が放送されました。

画面はスタジオにもどり片平課長がマッピングシステムについて説明し、集落の話し合いの中で、マッピングシステムを活用している風景が放送されました。

続いて、県内での集積事業の取り組み状況について、県内40ヶ所で支援している約1,400haの契約実績を説明しました。

最後にこれらの実績は公社のみの成果では無く、毎晩のように集会所に集まり、熱心に話し合いを重ねた地域の皆さんのそれぞれの努力の結晶であると締めくくりました。

なお、放送されたビデオを用意しておりますので農地調整課まで申し出ください。



青年農業者等育成センタ -

本県の新規参入就農者から就農希望者へアドバイス

～ 就農ガイダンス・就農準備校説明会 ～

平成 13 年 2 月 17 日（土）に東京都墨田区「両国公会堂」において、全国農村青少年教育振興会主催による「就農ガイダンス・就農準備校説明会」が開催されました。

この「就農ガイダンス・就農準備校説明会」は、農業を目指す方々が、土・日曜日や夜間に農業の勉強をする就農準備校を運営している全国農村青少年教育振興会が毎年この時期に開催しているもので、新規参入による就農希望者向けの、講演、パネルディスカッション等がそれぞれ行われ、本県事例を全国へ発信する好機となりました。講演では、当育成センタ - の長谷川所長が「新規参入の受入れと取り組み事例」と題して、新規参入者の意識・意向、就農への道筋とそのポイント等について、基調講演を行いました。

また、パネルディスカッションでは、長谷川所長をコ - ディネ - タ - に、福島県内に新規参入で就農された、須賀川市の伊丹雅昭さん（バラ栽培）、平田村の西田孝広さん（菌床しいたけ栽培）、白河市の天野雄介さん（トマト栽培）の 3 名に白河市の

指導農業士である関谷亮一さんの 4 名をパネラ - として、就農の動機、現在の経営状況、農地、住宅の確保、地域に溶け込む方法等について、話をさせていただき、これから就農を目指す人たちへ、それぞれアドバイスをさせていただきました。

会場には、約 350 名の方が来場し、熱心にパネラ - の意見に聴き入る姿が見られ、首都圏在住者の農業に対する関心の高さを窺い知ることができました。



事業課

公共牧場機能強化事業 茂原地区完了

平成 10 年度から阿武隈高原中部県立自然公園の山麓で、放牧場整備・環境保全施設整備を実施しておりましたが、平成 13 年 2 月 28 日に工事が完了いたしました。



事業種目		
草地造成・整備工事	9.8	ha
道路等整備工事	2,962	m
隔障物整備工事	5,971	m
牧場広場整備工事	162	m ²
東屋木造平屋建	3	棟



公社利用者の声

『公社の農地造成工事で出来た・もも畑を利用して』

福島市平野下白山 11 番地

馬越生産組合長 縦山和一郎

ももの規模拡大を図るため、昭和50年平野地区の仲間12名による生産組合を設立し、福島市馬越地区において公社の農地造成事業により10.6haのもも畑を取得いたしました。

現在は、組合員10名により10haのあかつきを栽培しており、この間組合の活動が認められ平成9年度には福島県、福島民友新聞社主催による”豊かなむらづくり賞”を受賞しており、多少なりとも福島県のもも産地の発展に尽くしてきたと思っております。

我組合の特徴は、共同でももの消毒・剪定を行ない、平成11年度からは、性フェロモン(コンヒューザーP)を利用した「環

境保全型農業」を新ふくしま農協全体で取り組み、安心・安全な果物の生産や、「光センサー」を使用し、ももの糖度を選別して、おいしい果物の出荷にも努めております。今後のももの生産については、技術的にも品質的にも高い生産物を消費者が求める時代になっておりますので、生産者としても益々勉強が必要であります。また、公社を利用したので、畑地造成については、地元の要望を優先的に聞き入れてくれた事と農地買入れ資金についても対応してくれたので非常にありがたいと思っております。

これからも地域のももの振興のため努力して行くつもりです。



(左：長男和宏氏・右：和一郎氏)



(ももの剪定をする和宏氏)

編集後記

激動の20世紀と、更なる発展が期待される21世紀を橋渡しした平成12年度も残すところあと僅かとなりました。20世紀は経済成長と高学歴化により、多くの人材が農村から都市へ流出したことによる担い手不足が、農村の崩壊に拍車をかけてきた。農村は、食料の生産だけでなく、我々人間が生きていくために必要な水や緑を提供してくれる大切な役割を果たしています。農林業従事者の高齢化、米価の下落等農村を取り巻く環境は厳しくなっておりますが、こんな時だからこそ農村の果たしている役割を十分認識し、21世紀の農業を考えなければならないと思います。 M.S

問い合わせ

あて先 〒960-8681

福島県福島市中町8番2号

財団法人福島県農業振興公社 総務課

TEL 024(521)9834 FAX 024(524)2393

みなさんのご意見ご感想をお寄せください。

この広報誌は、再生紙を利用しております。

「あなたを、守る シートベルト 忘れないでね」